

## 2. 2020年度第2四半期(上半期)の一般勘定資産の運用状況

### (1) 運用環境

当年度前半の日本経済は、緊急事態宣言の発令による外出自粛要請を受け、個人消費が落ち込んだほか、世界的には都市封鎖等により経済活動が制限されたため、欧米向けを中心に輸出も減少したことで、大きく減速しました。日経平均株価は、政府による緊急経済対策や緊急事態宣言の解除、海外株式相場の上昇などを受け、8月にかけて上昇傾向となりました。長期金利は、日銀による追加緩和の発表を受け、4月末に低下したものの、5月には政府による経済対策を受けた国債増発観測からやや上昇し、その後は横ばい圏内で推移しました。

### (2) 当社の運用方針

資産運用につきましては、

- ①保険商品・販売戦略、資産区分ごとの負債特性、内部留保(リスクバッファー)、必要収支等をふまえたALM運用の推進
- ②資産運用リスク管理機能のいっそうの高度化および安定収益資産を中心に据えた運用の継続、価格変動リスクの抑制による資産健全性の維持・向上
- ③上記を前提とした良好な運用成果の長期安定的な確保

等に取り組むことにより、お客さまに信頼される資産運用を実施することを基本方針としています。

### (3) 運用実績の概況

#### ア. 資産配分

新型コロナウイルスの感染拡大が経済へ与える影響が不透明であることをふまえつつ、安定的な収益確保をめざした資産配分を行ないました。具体的には、公社債を積み増すとともに、許容できるリスクの範囲内で外国公社債等に投資を行ないました。

2020年度上半期末の一般勘定資産残高は、前年度末から9,229億円増加し、39兆6,573億円となりました。主な資産配分は、以下のとおりです。

公社債につきましては、国内金利の上昇局面で日本国債の買い入れを行ない、前年度末から1,328億円の増加となりました。株式につきましては、株価の上昇等により、前年度末から5,003億円の増加となりました。外国証券につきましては、外国株式等の積み増し等により、前年度末から1,435億円の増加となりました。貸付金につきましては、貸出が返済を上回ったことにより、前年度末から140億円の増加となりました。不動産につきましては、減価償却等により前年度末から20億円の減少となりました。

#### イ. 資産運用収支

資産運用収益は、有価証券償還益の増加等により、前年同期比110.6%の5,230億円となりました。一方、資産運用費用は、金融派生商品費用の減少等により、前年同期比83.1%の1,256億円となりました。以上により、資産運用収支は、前年同期比123.6%の3,974億円となりました。